

多床室における患者の生活ストレスとその関連要因

The factor of psychological stress during hospitalize with roommates.

東3階病棟：二木 朗江・守屋 綾子
塩竈市健康福祉部健康課：赤間 由美
山形大学医学部看護学科：小松万喜子
山形大学医学部附属病院：黒田 成子

〈要 旨〉

入院は、環境や役割の変化、治療・病気に関する不安などにより、患者に多くのストレスを与える。多床室に入院する患者は、生活を共にする同室者の行動や関係からもストレスを生じ、そうしたストレスには患者の入院背景や病状が関連することが考えられる。多床室での生活において感じるストレスを測定する尺度として、「病室環境におけるディストレス測定尺度」を多床室入院患者用に修正し16項目からなる生活ストレス測定尺度を作成し、調査した。結果、「気になるストレス」としては温度・湿度、体調・風邪などの身体状態に関連するストレスが強かった。「気にするストレス」でも同様であったが、特に自分の排泄行為やベッドサイドの灯りなどを気にする者が多かった。また、「気にするストレス」の方が「気になるストレス」より強く、「気になるストレス」を強く感じている者は「気にするストレス」も強く感じていた。そして、生活ストレスには、性別や入院期間、手術予定などの入院状況が関連していた。

〈Key words〉

多床室、生活ストレス、関連要因

1. はじめに

入院は、環境や役割の変化、治療・病気に関する不安などにより、患者に多くのストレスを与える。多床室に入院する患者は、生活を共にする同室者の行動や関係からもストレスを生じ、そうしたストレスには患者の入院背景や病状が関連することが考えられる。本研究は、多床室の環境に対して感じる生活ストレス、入院背景や症状などとの関連を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

1) 調査期間

平成11年7月15日～10月21日

2) 調査対象

S大学病院とY大学病院の整形外科多床室（4床室、6床室）に入院する患者で、質問紙に回答でき、調査に同意が得られた患者97名。S大学病院51名とY大学病院46名。6床室63名、4床室34名。

3) 調査方法

(1) 方法

調査依頼状にそって病室で調査目的を説明し、同意を得た後にその場で質問紙を配布し、30

分後に回収に伺うことを説明した。回収時に記入漏れがないか確認し、補足した。

(2) 調査内容

多床室での生活において感じるストレスを測定する尺度として、病室環境におけるディストレス測定尺度¹⁾を多床室入院患者用に修正し16項目からなる生活ストレス測定尺度を作成した。ストレスには、「気になるストレス」と、自分が同室者に対して気遣うことで生じる「気にするストレス」があるため、本研究では「気になるストレス」と「気にするストレス」の両面から測定することとし、「気になるストレス」の測定尺度16項目のうち、温度、湿度、部屋の狭さ、病室内の医療器具、物音を除いた11項目に対応する「気にするストレス」11項目を作成した。これを、非常に気になる・非常に気にする5点、全く気にならない・全く気にしない1点の5段階評定で測定し、ストレスを強く感じるほど得点が高くなるようにした。

併わせて、性別、年齢、入院経験の有無、入院期間、手術経験の有無、手術予定、痛みなどを調査した。

4) 分析方法

統計用ソフト HALBAU Ver5.1 を使用して統計処理を行った。比率の差の検定にはカイ2乗検定を行った。独立した2群の差の検定には Wilcoxon の U 検定、対応のある2群の差の検定には Wilcoxon の符号付順位和検定、3群以上の差の検定には Kruskal - Wallis 検定を行った。相関の検定には Spearman の順位相関係数を求めた。なお、2施設間、4床室・6床室間では、有意差がみられなかったことから、本研究における分析は2施設の対象を全体として扱うこととした。

3. 結果

1) 対象の概要

男性36名、女性61名で、平均年齢49.5±18.2歳。平均入院日数28.0±36.0日で、入院期間は1ヶ月未満65名、1ヶ月以上2ヶ月未満17名、2ヶ月以上15名であった。入院経験がある者74名、ない者23名で、手術経験のある者66名、ない者31名であった。

手術は、術前22名、術後55名、予定なし19名、不明1名であった。

痛みは、常に痛む25名、動かすと痛む43名、いつも痛まない29名であった。

2) 生活ストレスの状況

「気になるストレス」の平均得点が高い順に図1に示した。

「気になるストレス」では、「温度」が最も高く、次いで「同室者の体調」「同室者のいびき」「湿度」などであった。

「気にするストレス」では「自分の風邪」「自分の排泄行為」「ベッドサイドの灯り」「テレビの光」などが高かった。

「気になるストレス」「気にするストレス」では「同室者との会話」を除いた全ての項目において、「気にするストレス」の方が有意に高かった。

3) 生活ストレスに関連する要因

生活ストレスと性別、年齢、入院経験、入院期間、入院日数、手術予定、痛みに関する項目との関連をみた。有意の差がみられたのは以下の項目であった。

(1) 性別：「気になるストレス」「気にするストレス」の「いびき」で有意差 ($p < 0.05$) がみられ、男性の方が女性よりいびきが気になり、気にしていた。

- (2) 入院経験：入院経験のある者はない者に比べて、「気になるストレス」「体調」が有意に高かった ($p < 0.05$)。
- (3) 入院期間：入院期間と生活ストレスでは、有意差がみられる項目が最も多く表1に示すように「気になるストレス」では「室内の医療器具」「室内の物音」「同室者の咳や体動」「医療者との会話」で、「気にするストレス」では「患者同士の会話」で有意差 ($p < 0.05$) がみられ、1ヶ月以上2ヶ月未満でストレスが強くなっていた (表1)。
- (4) 手術予定：手術予定がある者は、手術予定がない者や手術後の者に比べて「気になるストレス」の「風邪」で有意 ($p < .05$) に得点が高かった。
- (5) 痛み：動いていなくても痛みを感じる者は「気にするストレス」の「排泄行為」で、動かすと痛む者、痛みのない者よりも、有意 ($p < 0.05$) に得点が高かった。

4. 考 察

1) 生活ストレスの状況

「気になるストレス」で高得点の項目は「温度」「湿度」など室内気候に関するもの、「風邪」「咳や体動」「体調」など身体状態に関するもの、「物音」など音に関するものであった。「気にするストレス」も「風邪」「体調」は高得点であったが、「排泄行為」や「ベッドサイドの灯り」「テレビの光」など光に関する項目が「気になるストレス」に比べて高くなっていた。「温度」「湿度」などは自分での調整が比較的難しいものであり、患者は調整困難なストレスを我慢していることが多いのではないかと考えられる。基本的な環境調整が大切である。光に対しては遮光カーテンの導入も効果的と思われる。

また、身体状態に関する項目のストレスが「気になるストレス」「気にするストレス」とともに高いことから、同室者への気遣いと、自分の健康への影響の心配という両方の気がかりがあることが考えられる。患者は自分の健康状態に敏感になっていることが推測され、看護者が患者に接する際には、周囲に不安や心配を与えないような対応が重要である。

2) 生活ストレスに関連する要因

一般に、入院期間が長い患者は環境に慣れ、ストレスが低くなると思われがちであるが、本結果では、入院期間が1ヶ月以上2ヶ月未満の者の方が、同室者の体調や物音・会話に敏感になっている様子が伺われた。慣れが必ずしもストレス軽減につながらないことを理解して、可能な限り環境の調整をはかることが大切である。

術前の患者では「風邪」が気になっており、手術に備えて万全の体調を整えておきたいという患者の気持ちが反映していると考えられる。

同室者の排泄行為は、常に痛みがある患者の方が気になっており、こうした患者に配慮した換気や消臭剤の使用、周囲へ声をかけることの必要性が改めて確認された。

いびきについてはなぜ性差が生じるのかは不明であるが、不眠などから、人間関係の問題にまで発展することがあり、枕のアドバイスなどの指導が必要と思われる。

「気にするストレス」の方が「気になるストレス」より得点が高く、また、「気になるストレス」を強く感じている人は「気にするストレス」も強く感じていた。これは入院生活の中で自分が感じているストレスを他者に与えないように、自分も入院環境をできるだけストレスの少ないものにしようと配慮している結果ではないかと考える。

5. 結論

- 1) 『気になるストレス』としては温度・湿度，体調・風邪などの身体状態に関連するストレスが強かった。『気にするストレス』でも同様であったが，特に自分の排泄行為やベッドサイドの灯りなどを気にする者が多かった。
- 2) 『気にするストレス』の方が『気になるストレス』より強く，『気になるストレス』を強く感じている者は『気にするストレス』も強く感じていた。
- 3) 生活ストレスには，性別や入院期間，手術予定などの入院状況が関連していた。

引用文献

- 1) 上野栄一, 高間静子: 病室環境におけるディストレス測定尺度作成の開発, 富山医薬大医誌, 11(1), 65-68, 1998.

*本研究は，第31回日本看護学会にて発表した。

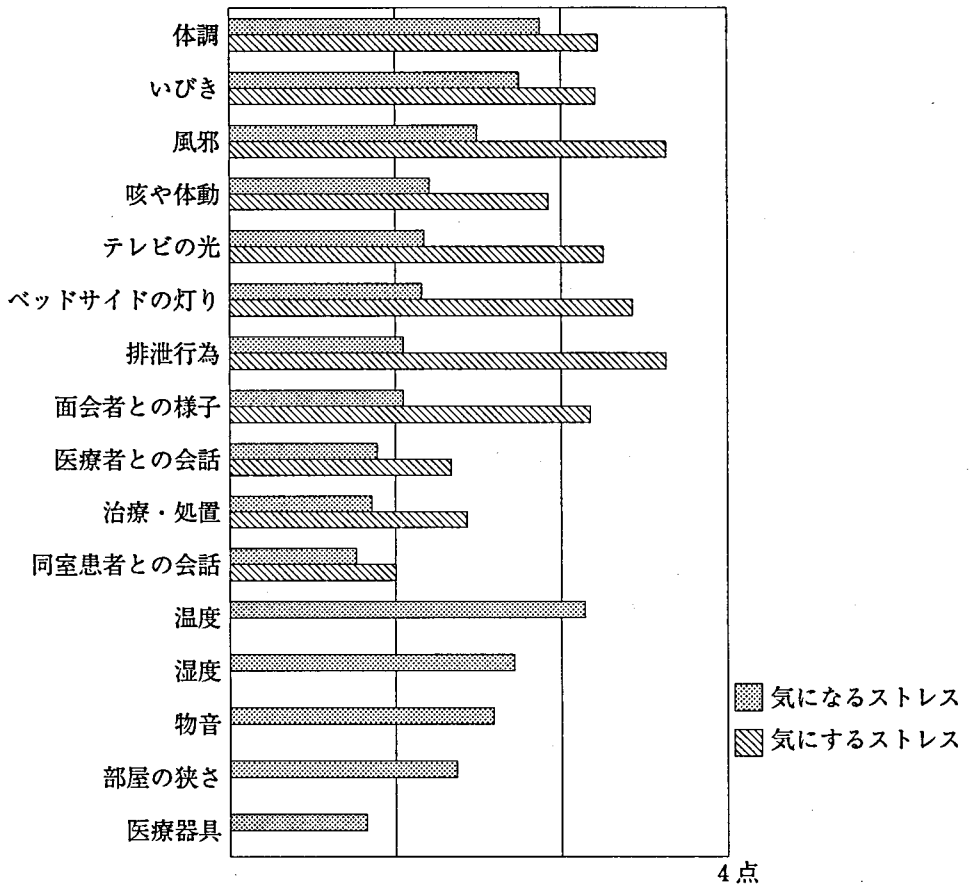


図1 生活ストレスの平均得点

表1 入院期間と有意差がみられた生活ストレス (中央値)

生活ストレス	入院期間			p	
	1ヵ月未満	1~2ヵ月	2ヵ月以上		
気になる ストレス	室内の医療器具	1	3	2	<.05
	室内の物音	2	3	3	<.05
	同室者の咳や体動	2	3	2	<.05
	医療者との会話	1	2	2	<.05
気にする ストレス	患者同士の会話	1	3	1.5	<.05